

令和3年度標準学力調査 指導方法等の工夫改善計画 【算数】

学年	課題となる観点	児童の誤答の系統と分析 (○) 教育指導上の要因分析 (●)	課題改善のための《指導場面 (指導時期)》と具体的な取組
2	思考・判断・表現	○無回答者はいないが、元の形からどこが動いているかを考えることができていないことや、「一番多い」「一番少ない」という観点で比較することができていない。  ●色板の数を数える問題の正答率は高いので、「元と比べて」「一番多い」「一番少ない」などの観点に応じて答えることが十分にできていない。	《図形の授業 (7月・11月・12月・2月)》 ものの形や立体が身の回りではどのようなところに見られるか、それらの用いられ方にはどのような特徴があるかということに気付いたり、敷き詰められた模様の中にいろいろな形を見つけたりする活動をさせる。具体物や色板、ブロックなどを用いて形の構成の仕方を考えさせるようにする。 《パターンブロック (通年)》 休憩時間等に、パターンブロックを使って遊べる環境づくりをし、図形に対する親しみを深めていく。
3	知識・技能	○基準となるものを基にして、さらにその上に同じ長さのものを2つ並べたものを2倍と考えている。実際は3倍の長さである。  ●もとにする量の1倍の量や、2倍、3倍の量とテープ図とを関係付けて理解する指導が不十分である。	《何倍でしょう (10月下旬から11月上旬)》 割合の3用法を扱った問題について関係図を用いて解決し、「もとにする量の何倍」という割合の見方・考え方の基礎を身に付ける。もとにする量を1とする考え方においては、関係図を使って説明をさせ、場面を設け、理解を徹底させる。
4	思考・判断・表現	○10倍や100倍と解答する児童が多かった。これは、単位を別の単位に換算する力が十分身に付いていない。  ●「1kgは1000g」といった知識を定着させる指導が不十分であった。また、1gがどのくらいなのか、1kgがどのくらいなのか、といった量感を身に付けさせる指導が不十分であった。	《小数・面積の授業 (7・10月)》 単位の関係についてまとめる際、表などを用いて整理することにより、k(キロ)がつくと1000倍になることや、それぞれが倍の関係になっていることなどに気付かせる。また、日常生活における水量の測定や、物の面積など、実際に自分で測ったり調べさせたりすることを通して、実感的に量を捉えられるようにする。
5	思考・判断・表現	○折れ線グラフから必要な数値を読み取ることができていない児童がいる。文章問題ということもあり、記述に必要な条件をふまえて述べることができていない。  ●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、根拠をもとに理由を説明する課題であった。折れ線グラフを関数的な関係を表す指導から、Dデータの活用では時間の経過に伴って、データがどのように変化するかを表す為に用いられている。指導に当たっては、適切な1目盛りの大きさや傾きに着目することで折れ線グラフの特徴を読み取らせる指導が不十分であった。	《割合のグラフの授業 (9月)》 資料の全体に対する各部分の割合を求めて、帯グラフと円グラフに表させる。また、目的に応じて、資料を適切なグラフに表して、データの傾向や特徴を読み取らせる。さらに、グラフの特徴を、多面的に捉え考察することができるように対話的な場面を設定する。そして、必要な数値や割合からわかることを条件を用いて記述で答えさせる指導を行う。
6	思考・判断・表現	○1に当たる大きさの単位を間違えている数直線を選んでいく児童が多かった。このことから、1に当たる大きさの理解ができていなかったことと、実際に計算をして確かめることをしなかったためであると考えられる。  ●公式や言葉の式だけでなく、数直線や図などを用いたり具体的な場面に当てはめたりして考える指導が不十分であったと考えられる。	《分数÷分数 (6月)》 基準量や割合が分数で表されているとき、分数を整数に置き換えて考えたり、図などで表したりして計算方法を考えさせるようにする。 《プリント・eライブラリ (通年)》 チャレンジタイムやスキルタイムでeライブラリなどを活用して、本学年で取り扱う内容だけでなく、第5学年までの内容についても復習する活動を継続して行う。 また、宿題でも繰り返し取り組んでいく。